

VOL.5

月刊タイガー通信

2025.10.15 発行

TIGER's Value Creation Story

住民が主体の鳥獣被害対策を、「現場支援」と「専門研修」の両面で推進

島根県美郷町で、住民が主体となる鳥獣被害対策を進めています。当社はこの活動に対し、「現場での直接支援」と「研修施設での知識提供」という二つの側面から参画。今回は、それぞれのアプローチを担う中国営業所の社員2名に、具体的な活動内容とその成果について話を聞きました。

「みさとキャラバン」への参加を決めたきっかけ

住民が主体となる鳥獣被害対策を支援するために

「みさとキャラバン」は、島根県美郷町の「住民が主体となって鳥獣被害対策を進めたい」という思いから始まりました。その考えが、当社の「収穫支援」という理念と合致し、参加することになったのです。しかし、私たちの役割は対策を代行することではありません。あくまでキャラバンの一員として、住民の皆さん「自分たちでできる被害対策」を実現するための支援をすることが目的です。ご高齢の方でも管理できる防護さくを提案するなど、使う人に合わせた対策と一緒に考え、専門知識や資材を提供することで活動を後押ししています。



美郷バレー中国営業所
つじの たくみ
辻野 拓海さん

具体的な活動内容

1.集落の点検

ご依頼をいただくと、まず現地の集落へ向かい、お客様と一緒に畑を歩きながら被害状況のヒアリングを行います。この際、「いつ頃から、どの動物に、何をされているか」を詳しくお聞きすることが、対策の第一歩です。



2.加害個体の捕獲

電気さくだけでは被害が別の畑に移るだけで、根本的な解決にはなりません。畑の作物を荒らすイノシシやシカなどの野生動物だけを「加害個体」と定め、それらを捕獲することで被害の抑制を目指します。そのため罠の設置や修繕も、私たちの重要な仕事の一つです。

活動の中で印象に残っているエピソード

「ありがとう」の一言が、何よりのやりがいに

2025年6月、田植え直後の田んぼが、シカの被害に遭っていると相談がありました。私自身は捕獲経験が浅かったのですが、営業所のメンバーと協力して通り道を予測。罠を仕掛けたところ、翌日には大きなシカを捕獲できていました。お客様に報告した際、「本当にありがとう」と心から喜んでいただけたときの表情は、今でも忘れられません。全員で成し遂げた達成感、そして町の方から直接いただく感謝の言葉こそが、この活動の最大の醍醐味です。

地域密着型営業で大切にしていること

日々の挨拶や会話から生まれる信頼関係

何よりも大切にしているのは「地域とのつながり」です。この仕事は、住民の方々との信頼関係なしには成り立ちません。その信頼関係を築くため、私たちの営業所では「お客様との距離の近さ」という強みを活かし、たとえばスーパーなどでお会いした際に積極的に会話を交わすなど。そのような気ないやり取りから、新たなご相談につながることも少なくありません。また「タイガーさんに頼んで良かった」という口コミから、新たなお仕事をいただいたこともあります。この深いつながりを大切に、これからも地域の収穫支援に貢献していく所存です。



美郷バレー中国営業所
地域おこし協力隊
かがわ まさや
加川 雅哉さん

研修・視察を行う背景と目的

正しい知識で、大切な農地を守るお手伝いを

鳥獣被害対策と、捕獲したイノシシやシカを資源として活かした地域おこしで、全国から注目される島根県美郷町。当社は、この先進的な地域を舞台に独自の研修・視察プログラムを提供しています。電気さくや防護さくのスペシャリストとして、参加者の皆さんに正しい設置方法や、よく見かける間違いなどを伝えすることが私たちの役割。そして最大の目的は、ここで得た知識をそれぞれの地域に持ち帰っていただき、大切な農地を自分たちで守れるようになってもらうことです。



取り組みの成果と手応え

参加者の納得した表情が、さらなるモチベーションに

研修に参加された方から、「うちの場合はどうすれば?」といった具体的な質問をいただくと、大きな手応えを感じます。その問いかけには、自分たちの地域を守りたいという真剣な熱意がこもっているからです。鳥獣被害対策を成功させるにはこの熱い思いが大切です。

研修に参加された方が課題解決のヒントを得て、納得され、やる気を出していただく。それこそが、この取り組みの何よりの成果です。

参加者や地域にもたらされたプラスの変化

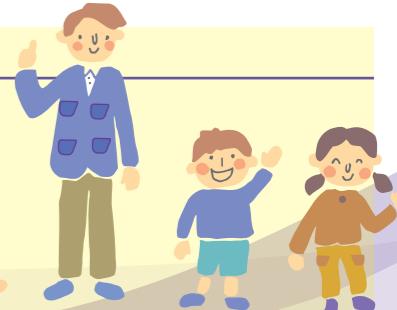
知識がもたらした「主体性」の芽生え

研修参加前は、「自分たちではもうどうしようもない」と、少し諦めに似た気持ちを抱えている方も少なくありません。しかし、正しい知識を学び、具体的な対策方法を知ることで、その意識は大きく変わり、「自分たちでもできることがあるんだ」と、主体的な気持ちが芽生えます。この「意識の変化」こそ、私たちの取り組みがもたらす最も大きなプラスの変化だと確信しています。また、何かわからないことや課題が出てきた場合は日本に幅広く拠点がある当社に頼っていただきたいと思います。



今後の展望 大切な出会いを、次の営業活動の起点に

研修で得た貴重なご縁を、今後の事業展開にさらに活かしていきたいと考えています。まずは、全国にある当社の営業拠点との連携を強化。研修に参加された方の情報を、その地域を担当する営業所と共有し、得た人脈を活かし、営業の助けになるようにしていきたいと考えています。



私たちの仕事が未来をつくる// SDGs!! ロードマップ

「SDGs」と聞くと、世界が抱える大きな問題で、自分とは少し遠い話だと感じていませんか?しかし、実は私たちの毎日の仕事の中に、未来をより良くするためのヒントが隠されています。普段何気なく行っている業務も、部署で始めた小さな改善も、すべてが持続可能な社会へつながる大切な一歩です。今回は、当社が進めているSDGsの取り組みに光を当て、私たちの仕事が持つ大きな可能性をご紹介します。

2 飢餓をゼロに ~鳥獣対策と地域創生~

過去

モノの提供

- ・鳥獣対策製品の開発

お客様のニーズに応え、
モノからコトへ



創業以来70年間、「農家の方々と共に歩む」という原点を大切に、鳥獣対策製品を進化させてきました。私たちの進化は製品だけに留まりません。現場の「捕獲してほしい」という声に応えて捕獲事業へ、「命を無駄にしたくない」という思いから約5年前にはジビエや革製品としての活用も開始しました。

最大の進歩は、製品という「モノ」の提供から、地域と連携して課題を解決する「コト」へと事業を進化できた点です。島根県美郷町との連携では、鳥獣被害対策を軸とした地域創生のモデルケースを構築。この取り組みは他自治体からも注目され、全国にネットワークが広がりつつあります。耕作放棄地対策やジビエ活用も商品化を実現するなど、多角的な活動を通じて持続可能な社会を目指します。

現在

コトへの進化

- ・地域連携モデルの構築
- ・ジビエ/革製品化
- ・耕作放棄地対策

課題を乗り越え、
真に信頼される存在へ

現在直面している最大の課題は、時間と人手です。捕獲協力の依頼は全国から寄せられますが、専属の部隊ではなく、全社員が日々の営業活動と兼務で模索している段階です。

私たちの究極の目標は、お客様から「タイガーがいて助かった」と心から信頼されること。今後は美郷町の成功モデルをより深刻な課題を抱える他地域へ展開し、将来的には捕獲専門の部隊を創設したいと考えています。私たちのビジネスが社会貢献であるという誇りを持ち、変化し続ける現場のニーズに的確に応えていきたいと思います。



HSM本部 西日本営業部 大阪支店

マネージャー

やすもと ひでのり
安本 英礼さん



未来

持続可能な モデルの確立

- ・成功モデルの全国展開
- ・捕獲専門部隊の創設



経営室
ほりば みほこ
堀場 美穂子さん

3

すべての人に健康と福祉を ~健康経営の推進~

過去

課題の認識

- ・健康課題の把握

現在

基盤づくり

- ・健康診断の受診率100%の維持
- ・健康手当制度の導入
- ・クリーンな職場環境

未来

ウェルビーイングの実現

- ・成果の可視化と改善
- ・健康アプリの導入

社員の健康が会社の活力。
健康経営への挑戦

目指すのは、社員と家族全員の
ウェルビーイング

今後の課題は、活動の成果を具体的な数字として把握し、改善につなげていくこと

です。現在は有志で試している段階ですが、社員同士で歩数を競える健康アプリの全社導入も検討しており、コミュニケーションの活性化も期待しています。

第一の目標は、社員が心身ともに健康で、安心して働き続けられる職場環境の実現です。そして、その輪がご家族にも広がり、従業員とご家族も含めた全員の幸福度(ウェルビーイング)が向上していくことが、会社の最終的な目標であり、成長の原動力になると信じています。

太陽光発電や災害対策の取り組みも!

7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

当社は自社発電所「筒井蓮華発電所」を保有しています。この発電所で生み出される電力は、全拠点の年間使用電力量に相当する規模であり、事業で用いるエネルギーを自社で創り出すことで、環境負荷の低減に貢献しています。



11. 住み続けられるまちづくりを

万一の事態に備え、全従業員分の災害キットを各拠点に配備しています。キットには水や食料、簡易トイレなどが含まれており、帰宅困難時にも社員が1~2日は社内で過ごせる体制を整えています。